

## 221 低左心機能患者に於ける急性除水の右心機能に及ぼす効果

千葉博、篠原昇一、東幹雄、山下雅司、松田圭市、田端志郎、水野俊和、大野穰一（耳原総合病院内科）  
西村恒彦（大阪大 トレーサ）

低左心機能患者に於て、急速な除水治療が右心機能に及ぼす効果を、透析症例20例を対象に検討。透析前後に心プールシンチグラフィを行い、RVEF、LVEFを計測。カウント法にて心容量も計測。上肺野と下肺野の比lung count ratio(LCR)も透析前後に計測。透析前のLVEFが50%以上の正常群(11例)と、50%以下の低下群(9例)に分けて、透析前後の右心機能を検討。正常群は透析後のRVEFが平均6%増加したのに対し低下群は平均0%増加はなし。LCRの低下は正常群の方が低下群より大きかった。低左心機能患者では除水後、左室の後負荷の減少が正常例に比し少ないために右心機能の改善度が少ない。

## 222 心室中隔部異常の右室機能へ及ぼす影響について

井上一也、開発直明、花岡淳一（国立明石 循）  
宇治茂（同 放）前田和美（神大 医技）

右室機能における心室中隔の役割につき中隔肥大、中隔運動低下例を含め検討81mK r R波前後方向同期心プールシンチを用い32例の中隔肥大(ASH; A群)、28例の中隔運動低下(LAD領域のOMI; B群)、健常例20例(N群)を加え検討した。RVEF, PERは3群間で有意差を認めなかった。PFR, FFはA群( $p < 0.001$ ,  $p < 0.001$ )、B群( $p < 0.001$ ,  $p < 0.005$ )とN群に比し有意に低下した。心室中隔部異常は肥大例、壁運動異常例ともに、右室拡張機能障害を呈する。

## 223 非虚血性完全左脚ブロック症例における右室収縮及び拡張機能評価

井上一也、開発直明、花岡淳一（国立明石 循）  
宇治茂（同 放）前田和美（神大 医技）

冠動脈病変を有さない完全左脚ブロック症例において右室収縮及び拡張機能評価を試みた。81mK r R波前後方向同期心プールシンチを用い、28例の非虚血性完全左脚ブロック症例(C L群)及び20例の健常例(N群)を対比検討した。RVEFはC L群及びN群で有意差を認めなかった。PER( $P < 0.05$ )、PFR( $P < 0.001$ )、FF( $P < 0.05$ )はC L群においてN群に比し有意に低下した。TPFR( $P < 0.025$ )、TPFR/TPER( $P < 0.025$ )とC L群において有意に上昇した。非虚血性完全左脚ブロック症例においては右室機能障害が認められる。

## 224 塩酸デラプリル単回経口投与が心不全患者の左室機能に及ぼす影響—運動心プール法による検討

磯部 智、岡田充弘、棚橋淑文、近藤一正（名古屋掖済会病院 内科）、安藤晃禎、林 博史、斎藤英彦（名古屋大 一内）

本研究では慢性心不全患者15名を対象として塩酸デラプリル60mgの単回経口投与が左室機能に及ぼす影響を運動心プール法により検討した。

デラプリル投与前後には血圧は有意に低下したが、心拍数は有意な変化を示さなかった。左室駆出率および最大左室収縮速度はコントロールでは安静時と運動時に有意な変化を認めなかった。一方、デラプリル投与後では左室駆出率は安静時に比し、運動時には有意に増加し、最大左室収縮速度は増加する傾向を示した。

塩酸デラプリルの経口投与は慢性心不全患者の左室機能を改善することが示された。

## 225 虚血性心疾患診断におけるATP負荷心プールシンチグラフィの有用性

藤永 剛<sup>1</sup>、村田 啓<sup>2</sup>、丸野広大<sup>2</sup>、小宮山伸之<sup>3</sup>、小野口昌久<sup>2</sup>、原 正忠<sup>1</sup>、岡村哲夫<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>慈恵医大・4内、<sup>2</sup>虎の門病院・放、<sup>3</sup>同・循セ)

ATP負荷心プールシンチグラフィの有用性を評価するために、虚血性心疾患7例および正常対照3例に対し、体内赤血球標識法によるfirst pass法を用いて、安静時およびATP負荷時の心プールシンチグラフィを施行した。右前斜位30度にて安静時像を収集した後、投与速度0.16mg/kg/minにてATPを持続静注し、投与開始4分後にATP負荷時像を収集した。ATP負荷により虚血性心疾患7例中5例(5領域)に局所壁運動の低下を認め、6例に左室駆出率(LVEF)の低下を認めた。正常対照3例では局所壁運動およびLVEFともに低下を認めなかった。虚血性心疾患診断における本法の有用性が示唆された。

## 226 ATP負荷<sup>99m</sup>Tc心プールシンチグラフィ(RNVG)による虚血性心疾患の評価—運動負荷との比較—

長岡秀樹、久保田幸夫、飯塚利夫、今井進、村田和彦（群馬大学第2内科）、鈴木忠（同医療技術短期大学部）

虚血性心疾患(IHD)(I群)17例と正常対照(N群)5例にATP負荷(0.18mg/Kg/minを5分間静注)と運動負荷RNVGを施行し、両負荷の左室反応を比較した。ATP負荷では、両群とも左室駆出率(EF)は有意に増加し、左室拡張末期容量(EDV)、左室収縮末期容量(ESV)は有意に減少した。また、I群のpeak filling rateは、N群に比し、有意に低値を示した。運動負荷では、両群ともEDVとESVは有意に増加したが、EF及びwall motion scoreは、I群で有意に低下した。IHDの診断におけるATP負荷のsensitivity、specificityは、それぞれ24%、100%。運動負荷では、77%、100%であった。IHDでは、ATP負荷で収縮機能障害は生じず、拡張機能障害を生じるのみであった。